

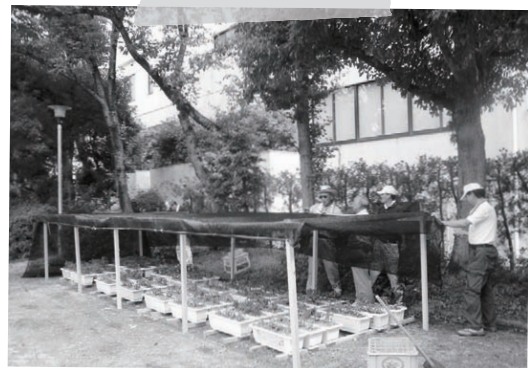
48年ぶりの山口国体を迎えて

会長 清木健一

とよい民泊協力会には、兵庫県成年女子バスケットチーム16名がこられました。2人1組で8家庭に民泊をお願いしました。27人の調理班、60人のボランティアスタッフにも参加をいただき、スムーズに運営ができたと思います。公民館での歓迎会・送別会も皆様方のご協力により、盛大に執り行うことができました。また、花いっぱい運動も行い、サルビアなどを民泊家庭や拠点施設、道路に飾りました。

選手には、下松市の代表的な企業でもあります日立製作所にて新幹線が出来上がる課程を見学していただきました。

民泊の長きに渡る準備など大変でしたが、多数の皆様方の参加をいただき、楽しい思い出になったのではないかと思います。



国体の思い出

美化班長 有馬甚二郎

育成場所は、昨年の経験をもとに、公民館横の公園とし、散水は、美化班を中心に会長と各班とボランティアの42名を21班に分け、57日間の花管理を計画した。

7月26日、苗が市の実行委員会から届き、プランターへ移植し、遮光ネットを取付け。8月5日から朝夕2回の散水を開始するが、昼間の照射時間が少ないことが分かり、20日から朝1回に変更、置き場所も9月から変更した。開花までの肥料、薬剤散布、枯れた苗の植替えは、公民館職員をお願いをした。散水時間は、蚊が出没し、当番の方には苦勞をかけました。

22日は公民館周りの植木の剪定の手伝い。9月27日には、プランターを民泊家庭へ4基ずつ配布し、公民館玄関に設置した。

会長をはじめ、たくさんの方の御協力を得て、美化班の仕事を終えることができました。感謝いたします。

おいでませ！山口国体

歓迎班長 藤田幹雄

山口国体において、下松市のどこの民泊協力会の皆様も迎え入れる他県からの選手団を心から歓迎し、応援し、送り出されたことと思います。私も歓迎班長に任命され、歓送迎会の司会等にこの町・この地域の方言丸出しで務めさせていただきました。選手団の皆さんも気を使わず、楽しんでくれたことと思います。

試合では、勝てると思っておりましたが惜しくも敗れ、われわれの当初の計画より早くお別れすることとなりました。来年のぎふ国体では、兵庫選手団の更なるご活躍を願います。

別れの朝、見送り会で監督から「来年の国体にこられますか？」と聞かれたとき「わからんねえ！」と返答したことが後から考えたとき、心残りに思えました。「はい！応援にいつちやげますよ！」と次回国体ではそう答えます。自分の寿命の都合がありますけど、、、。

山口国体民泊はいろいろ勉強になりました。ありがとう。



山口国体を終えて

調理班長 清木貴美子

「たちあがれ！東北 がんばろう！日本」を合言葉とした48年ぶりの山口国体。とよい民泊協力会も各班において、準備が進められました。私たち、調理班27名。衛生研修会、調理班指導者研修、班長会議と研修を重ね、調理実習も全員と各班に分かれ、何度も行いました。総務班や民泊家庭の方たちにも試食していただいて、味の確認をし、本番に備えました。調理班は特に衛生を第一に「食中毒を出してはいけない。」「大変だ。」「面倒だ。」といいながらもその都度話し合いました。調理班は朝早くから夜遅くまで、本当に大変だったと思いますが、選手の顔を見たら、大変さも楽しみながら、食事を作ることができました。

選手から「毎日おいしい食事をありがとうございました。」と言っていたときは、大変だったけど何事も無く終わらせることができた、ホッとしました。

調理班の皆様ありがとうございました。

民泊を受けて

民泊家庭 近藤 薫

東京オリンピックの前年、昭和38年、第18回国民体育大会が開催された。15歳のときである。今でもそのときは覚えている。このたびは何らかの形で国体に協力・参加できないかと思っていた矢先に民泊家庭の話があった。

どのチームがくるのか、どんな選手が来るのか、直前までいろいろな思いを馳せながら、ついにその日は来た。

10月1日に兵庫県チーム女性2名を息子夫婦といっしょに歓迎し、試合に応援に楽しい3日間だった。

10月4日の朝の別れは、感傷的になり思わず、、、。今回、民泊家庭を引き受けて本当に良かったと思う。これこそが本当の国体ではなかろうか。おいでませ山口！！



民泊を受けて

民泊家庭 武居 悟・しのぶ

民泊家庭研修会を受講したり、民泊協力会と打合せをするたびにムードがだんだん盛り上がってきました。

我が家には大学生の2人の娘さんが来ました。2日目には、娘夫婦、嫁、孫達が来ました。孫達は、色紙にサインを書いてもらったり、「試合頑張ってね」と小さい手で、握手したりと、選手に甘えていました。

試合は、我が娘達の大活躍でしたが、惜しくも敗退しました。その日の夜の送別会では、それぞれの民泊家庭と選手が壇上でエピソードを発表するなど、楽しいひと時を過ごしました。

お別れの朝、自家製のさつま芋、春菊、ワケギ入りの味噌汁で我が家を後にしました。忘れ物がないかと部屋をのぞいてみると、後片付けがきちんとされていました。礼儀正しい娘さんたちでした。

バスに乗る彼女達を見送り、一生懸命手を振ってくれる姿を見て、民泊を引き受けてよかったと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

本当にありがとうございました。



下松市に着き改札を抜けると目の前には、下松市の民泊協力会の方々が大きな横断幕とともに私たち兵庫県成年女子チームを出迎えてくださいました。盛大な歓迎に最初は驚いてしまいましたが、とても嬉しかったです。

駅から移動して公民館に着くと、こちらでも横断幕とともに多くの人たちが私たちを出迎えてくださいました。兵庫県成年女子のほとんどの人にとって民泊は初体験で不安がありましたが、これだけ温かく迎えてくださったので、不安はすぐにはなくなりました。

試合が残念な結果に終わり、2泊3日の短い期間でしたが、どの家庭も私たちが訪れるずっと前から細かい準備をくまなくしていただいて、何よりも選手が訪れるのを楽しみにしていてくださって、とても過ごしやすく安らぐことができました。自分の家ではないのですが、「私の家はこんなに広い」「私の家はこんなに良くてくださる」なんていう、『自分の家自慢』が選手の中で繰り広げられる程でした。民泊協力会の皆さんが朝早くから作ってくださった朝食や夕食は、美味しいのはもちろんのこと種類も豊富で色鮮やかで楽しみながら食事ができました。遠征の試合の時などにはなかなか味わえない温かい味を食べることができ、試合前の選手の大きな活力になりました。どこで過ごしてもホテルなどに泊まるより、直接身近に人の温かさを感じることができて、本当にいい思い出になりました。

試合の時には皆さんが応援に駆け付けてくださり温かい声援をいただき、大きな力となりました。お世話になった方々にバスケットボールを通して恩返しをしたかったのですが、結果は力及ばず残念ながら負けてしまいました。でも、人生で初めてバスケットボールを見たという方々が「凄かったよ」「バスケットボールって面白いね」「また見たい」と声をかけてくださったので、精一杯戦って良かったと思うことができました。山口国体で下松市に来て、皆さんに出会えて、試合をすることができて本当に良かったです。

最後の夜には盛大な送別会をしてくださり、美味しいお料理と共に笑いあり踊りあり感動ありと、とても色濃い時間を過ごさせてくださいました。

一生の思い出になる2泊3日を本当にありがとうございました。

兵庫県バスケットボール成年女子

木下歩紀 村田稚佳

